

今、
商店・企業
は

風評被害対策町全体で

震災はそんな時に起きたが、放射
性物質もほとんど
検出されず、仲田
さんは風評被害はどこかひと
ごとのように感じていた。

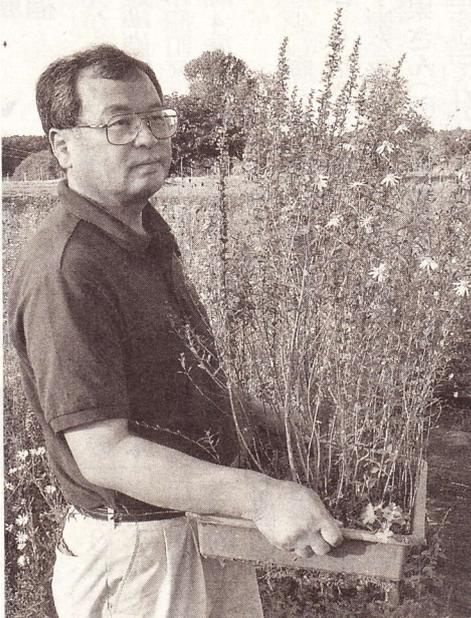
しかし、注文は徐々に減り、
4、5月の売り上げは前年の
半分に。5月から農場の土と
水の放射線量を測定して、取
引先に安全性を訴えると、7
月以降の売り上げは前年比9
割まで回復。「行ける」と思
った。

「取引を見合わせたい」と通
告された。今も取引先から「本
当に大丈夫か」と電話が入り、
新規の顧客獲得は難しい状態
が続いている。

福島県石川町の「仲田種苗園」社長・仲田茂司さん(54)は
今月8日、地元で開いた福島
第一原発事故による風評被害
をテーマにしたセミナーで、
商工業者約30人を前に「町全
体で乗り越えていこう」と語
りかけた。

同社の人気商品「野の花マ
ット」はスミレ、キキョウ、
オミナエシなど草花10種以上
を寄せ植えた縦34センチ、横46
センチの植生マット。簡単な手入
れで季節の花を楽しめるこの
商品は、ビルの屋上緑化で知

福島・石川町



野の花マットを手にする仲田さん（福
島県矢吹町の仲田種苗園矢吹農場で）

られるようになった。200
2年の販売以来、売り上げを
伸ばし、今年2月には、東京
工業大キャンパスやJR武蔵
小金井駅前ロータリーでも採
用された。

ところが、8月に「京都五
山送り火」で京都市が、放射
性セシウムが検出された松を
薪として使わないと発表。商
談中だった都内の百貨店から
仲田さんは、7月に町職員
や菓子製造会社とプロジェク
トチーム「トップランナーI
SHIKAWA」を発足させ
た。「仲間と一緒に行動して
いくしかない」と痛感したか
らだ。町産業振興課の瀬谷寿
一課長(58)は「風評被害対策
に民間から立ち上がってくれ
たのは心強い」と話す。

仲田さんはこの秋にも全国
を飛び回り、野の花マットを
精力的にPRする予定だ。

(長田義治)